長崎市立日見中学校の平和学習

1　学校の概要

8 学級、生徒数 157 名、職員数 24 名
長崎市界 2 丁目 15 番 1 号
HP：https://www.nagasaki-city.ed.jp/himi-j/

日見は、長崎市の東部に位置し、古くは長崎から江戸に向かう旧長崎街道の宿場町として栄えた地域である。日見中学校は、地域の中心にあり、1947 年に開校した。学校教育目標は、「平和で豊かな社会を創る力と志を身につける」。

2　平和学習の目的

・長崎で起きたことを継承し、平和実現の志を持つ。
・人と仲良くする力とその思いを発信する力を身につける。
・身を修め、もって平和を実現しようとする態度を養う。

3　平和教育の内容

(1) 嘉代子桜 3 世プロジェクト：本校の平和学習活動の原点

長崎の原爆の犠牲になった林嘉代子さんの母親が、娘が好きだった桜を植えたことから始まった嘉代子桜 2 世プロジェクト。このいただいた 2 世の桜から 3 世を育て、それを世界に送るというプロジェクト。この活動は、桜の育成を通して、「親の愛」、「きょうだいの絆」、「友の支え」をキーワードに、世界平和を願い、実現できる「人」を育てるという、世界平和実現を本気で目指す取組である。

(2) 平和パネルディスカッション

高校生平和大使、被爆継承者、市平和宣言作成委員など、第一線で活躍中で、生徒と年齢の近い講師による、ディスカッションを行うことで、より実践的な平和活動に対する理解や活動意欲を高めた。

(3) アンネ・フランク展

オランダのアンネ・フランク基金から多くのパネルが日本へ送られ、過去 118 回全国を旅している展示が来校。ヨーロッパの戦争被害についての知識を広める機会となった。

(3) 平和を考える日

キッズゲルニカ 2023、ピースバルーンリリース、ウクライナの方からのメッセージ視聴を行った。また、ウクライナへのメッセージを作成して発信するなど、平和な世の中を創ることのできる人材育成を目指した取組を行った。

ウクライナへのメッセージ

　こんにちは、私たちは、日本の長崎にある、長崎市立日見中学校の生徒です。
私たちは、今、どのようにすれば、世界が平和になるかを考え、生徒自ら企画を発案したり、計画を立てたりして、「嘉代子桜３世プロジェクト」という名前の「世界平和を目標とする活動」を行っています。

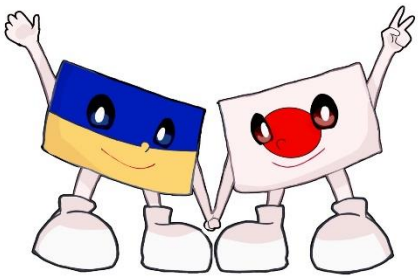
　ウクライナのハンナ・マモノアさん。大変な中、私たちへメッセージをくださり、ありがとうございました。また、メッセージをいただくにあたり、協力してくださった方々に感謝します。

　メッセージを伺って、私たちが知ったこと・感じたことは、ウクライナでは、想像を絶するような恐怖に包まれた毎日を過ごしている大勢の人々がいる。町に戦車の列があり、大砲が、隣の町に向けて放たれている。祖国を守るためとはいえ、愛する人を失う、又は失う可能性があるという悲しみ。１日１日を生き抜くという大変さです。そして、特に印象に残ったのは、「戦争」を知らなければ、「本当の平和」がどのようなものかはわからない。という言葉です。

　長崎にもかつて原爆が落とされたという深い傷が残っています。少なくともここ原爆が投下された長崎には、戦争の痛み、苦しみ、悲しみをよく理解している人が多いです。アンネ・フランクの展示やキッズゲルニカ作成を通して、同じように戦争に苦しんだ仲間が世界中にいることもよく知っています。それは、誰よりも平和を願っているということです。

　現在、私たちは、争いが終わり、復興と平和を成し遂げた長崎で幸せに暮らしています。そして、この世から早く戦争や核兵器をなくしたい。ウクライナには、早く戦争が終わり、平和な町に戻ってほしい。戦争をして幸せになる人はいない。相手の国にも平和の大切さを知ってほしい。自分たちができることを少しでもしていきたい。私たちもウクライナの力になることができる。そう思って、活動を続けています。

　ウクライナの皆さん、あきらめないでください。世界各国には、たくさんの味方がいることを忘れないでください。平和な世界をつくれるように一緒に頑張りましょう。どんなに苦しいことがあっても、戦争のない平和な生活を送れることを願い、希望を捨てずに頑張ってください。私たちは、いつか安心して祖国に戻れること、無事に戦争が終わることを願って、少しでも皆さんを元気づけられるよう平和の活動に取り組んでいきたいと思います。ウクライナの人々がまた、安心して幸せな暮らしを手に入れることを願っています。どうか、あきらめず、前を向いて生き抜いてください。



　平和な世界になることを願います。